

## 関西創価高校スーパーグローバルハイスクール(SGH)の高校生が災害科学国際研究所を訪問されました(2016/3/22)

テーマ：東日本大震災、持続可能な開発目標 (SDGs)、防災・減災  
場所：東北大学災害科学国際研究所 (宮城県仙台市青葉区)

2016年3月22日(火)午後、関西創価高等学校スーパーグローバルハイスクール(SGH)から20名の高校生が引率教員の方々とともに、「東北フィールドワーク」の一環として災害科学国際研究所(IRIDeS)を訪問されました。当研究所 情報管理・社会連携部門の桜井愛子准教授が、防災教育の専門家として、また、これまで海外で開発問題に携わってきた知見を生かして「持続可能な開発と防災～教育からの視点～」と題する講義を行いました。講義に続いて、東日本大震災の被災と復興の記録3D映画「大津波3.11 未来への記憶」(80分版)の上映を行いました。

桜井准教授の講義に先立ち、関西創価高等学校の生徒さんから事前学習の成果として、東日本大震災やネパール地震の復興の課題、「人の不幸の上に自分の幸福を築かない」ために今後の防災には何が必要かをまとめた発表が行われました。その後、発表を受けて桜井准教授は対話形式での講義を行い、国際開発、特に女子教育の推進等の関わりから復興・防災教育への関わりについて自身の体験を紹介するとともに、開発と防災・減災は密接な関係があり、持続可能な開発のためには、貧困問題等とともに災害の事前予防が重要である旨、仙台防災枠組等にも触れながら強調しました。生徒さんは熱心に聞き入り、「講義によって、防災・減災が持続可能な成長のキーワードであることを学べた」、という感想をいただきました。

その後、3D映画「大津波3.11 未来への記憶」80分版を上映しました。中鉢奈津子特任助教(広報室)が、同映画は災害の記憶を後世に残す目的で、ジャーナリストの主導でNHKメディアテクノロジーによって制作され、科学的に正確な内容とするため、IRIDeS 所長が津波工学の専門家として監修を行ったこと等を説明しました。上映後、「映画の内容が、生徒の皆さんが前日に行った被災地における津波遺物収集作業とリンクし、学びが深くなった」との感想をいただきました。



桜井准教授による講義



関西創価高等学校の生徒さんによる  
事前学習成果発表

文責：桜井愛子(情報管理・社会連携部門)  
中鉢奈津子(広報室)

写真：鈴木通江(広報室)